

# 民報あばしり

NO. 983

2014/8/31

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二一四四五八  
F 四三二一四四五七

## 「戦場は沖縄の先にある」

### 影山あさ子監督 来網 「沖縄の今を語る」

米軍ブートキャンプ(新兵訓練所)を取材した映画「ワンシヨット・ワンキル」が8月24日に母親大会実行委員会の主催で上映されました。

深夜に到着し教官にどなり散らされながら12週間の訓練に突入していく若者たち。「私」という言葉を禁じられ個性の一切と思考を放棄させられる軍隊の本質を描いた映画でした。

「沖縄の海兵隊たちの顔が何故幼く屈託なく見えるのか。それはまだ、彼らが人を殺していないからだ。戦場は沖縄の先にある」と映画は語ります。

「戦争の記憶―沖縄で戦った北海道の若者たち」と「辺野古新基地は戦争準備」も同時上映されました。

上映後、沖縄の名護市辺野古で米軍基地建设に反対する住民を撮り続けている「森の映画社」の影山あさ子監督が沖縄から駆け付け、7月末まで撮った米軍



基地ゲート・シユワブ前や海上での住民の辺野古基地建设に反対する映像を映しながら「沖縄の現在」について語りました。

参加者からは「安倍政権のもと、日本の未来を見ているようで怖い」など感想が寄せられました。

母親大会は最後に「大会宣言」と「決議文」の承認を得て閉会しました。

## いよいよ東奔西走

地域で市民の怒りの一つに電料金の大幅な再値上げ申請があります。

昨年9月に続くもので、北電は23日より一般利用者向けの説明会を開始しましたが、どこでも再値上げに批判が集中しました。その批判内容も、現在稼働停止している泊原発が再稼働できれば、電気料金を引き下げるといふ説明に、「100%安全でない原発ありきで電気料金を考える時代ではない」、「安全で再生可能な自然エネルギーへの転換をどうして考えないのか」など、しごく真つ当な意見ばかりでした。それでも北電の強気の背景には、安倍政権の原発推進政策があります。安全とくらしを守らない政権は退場してもうしかありません。

## 菊地ひろし まっしぐら!

広島市・礼文町の土砂災害に胸が痛みます。全国の土砂災害危険箇所は、お金と人手が足りなくて、まだ調査が終

わっていないとの事です。この間、読者集金の時に「9月議会がまもなく始まります、何か気になること、要望などありませんか?」と尋ねたところ、「人の話だが8月の土砂災害警報が出た時、大きな石が落ちてきたそうだ」と話していました。現場近くを見てみると、防護柵のところの土嚢(どのう)の袋が破れて、中の土が、むき出しになっているところもありました。網走も土砂災害特別警戒区域が多いところです。警戒避難体制の整備をもう一度見直すなど、9月議会でも市民の声を活かしていこうと話しています。

## 松浦奮戦モ!

いま、議会運営委員会で議員の定数と報酬について議論しています。

なぜ市民が定数削減せよというのか、「議会が市長の提案するものにまともな議論もしないで賛成する。これでは追認機関でしかない。そんな議会なら議員を減らせ」ということではないのか。「与党・野党であつても、しつかり議論する。この根本問題を解決しないで、市民が減らせというから減らすというのは間違いだ」と反論しています。定数削減が進めば大きな支援団体や組織を持つ候補者が有利になるだけで、底辺の民の声が届かなくなりす。

## 流水

私は20代で父親になりました。生まれた長男が育つにつれ、その寝顔を見ながら「この子が戦場に行くようなことがあつてはならない」と強く思ったものでした。そしてこの国が平和であつてほしい、そのためには親が頑張らないとも思いました。幸いなことに世界に誇れる平和憲法があるのだから▼それから40数年がたちました。日本は戦争しない国としてずっと生きてきましたから、息子はもちろんのこと、日本人は戦争で殺し殺されることなく過ごしてきました▼しかし、この道は平坦ではありませんでした。自衛隊はどんどん増強され、世界でも有数の軍力を備えるまでになりました。平和に貢献という名目でPKOなどで海外に出かけることも多くなりました。沖縄の米軍基地からベトナムなどへアメリカの戦闘機が次々と飛び立ち爆撃を加えました。アメリカが引き起こす戦争のすべてに政府は賛成し続けました▼安倍政権がブレーキなしの欠陥車を大暴走させています。秘密保護法をつくり、集団的自衛権を閣議決定しました。いずれも憲法違反の暴挙です。戦争の危機が一気に高まっています▼今、私は子どもたちではなく孫の姿を見ながら「この子たちを戦争に行かせない」と昔より更に強く思っています。「この国の平和を守ってきたのは政府ではない。平和を願う国民の運動が暴走を許さなかつたのだ」と▼息子や孫、私的なことを書きました。でも、この私的なことが集まりが、平和を守る大きな力となると思うのです(〇)